

マーサージャパン株式会社
今井 俊夫

第 15 回 「どうする? 日本銀行」

「どうする? 日本銀行」

今はどのように教えているか知りませんが、筆者が高校で学んだのは、日本銀行は「公定歩合」によって景気を制御しているということでした。景気が過熱してきたら「利上げ」をして市中に出回るカネを回収し、景気が冷え込んできたら「利下げ」をして投資や消費を促すのです。高校生にもなんとなく理解できる大人の世界の話でした。

時は流れ、昨年末の日本銀行金融政策決定会合で決められたのは、「イールドカーブ・コントロールにおける長期金利の変動幅を±0.5%程度に拡大する」というものでした。もはや大人にも理解不能な世界に突入しているようですが、「10 年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買い入れを行う」操作方針の維持を前提としていることと併せて考えれば、対象とする金利や制御の方法は変わっても、日本銀行は引き続き金利水準を制御しようとしていることが分かります。

なぜ日本銀行は金利水準を制御しようとするのでしょうか。景気の冷え込みはぜひ回避してもらいたいのですが、過熱を抑える必要があるでしょうか。実は日本銀行は景気を制御したいのではなく、円の信認を守ることに目的があると考えたほうが、合点がいきます。いつでも金に交換できるなら、金が円の価値を保証するでしょうが、それもなくなった今、円の価値を支えているのは、日本銀行に対する目に見えない「信用」です。野放図に通貨を発行すればその価値は下がります。通貨の価値が下がると、物価が果てしなく上昇していきます。「価値が下がりそうだ」と思われるだけで物価が上昇していくでしょう。日本銀行に限らず通貨発行権を持つ世界の中央銀行は、その価値を維持し国民生活の安定を確保するために、金利水準を制御しようとするのです。日本橋の日本銀行本店の本館を上から見ると「円」の形に見えるのは、たまたまとは言え、象徴的です。

物価の大幅な上昇を受け、昨年一年間、米欧の中央銀行が相次いで利上げを進めたのは、物価が上昇を続ければ、いずれ通貨の信認に傷がつかかねないためと考えることができます。日本では、この 30 年間、あまりにも物価の上昇が見られないこともあり、物価の上昇を促す緩和的な政策がとられてきましたが、物価の上昇が方々で確認されるようになった今、景気の冷え込みを回避しつつ、物価上昇が加速することのないよう、日本銀行には難しいかじ取りが求められています。